

中等教育研究開発室年報 第33号 (2020年3月31日発行) 別冊電子版
2019年度 授業実践事例

芸術科 (音楽) 中学校第2学年

クラス器楽合奏 アラン・メンケン作曲「ア・ホール・ニューワールド」

授業者 原 寛暁

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

中学校音楽科 学習指導案

指導者 原 寛暁

日 時	令和元年 12 月 4 日 (水) 第 5 限 13:20~14:10
場 所	第 1 音楽教室
学年・組	中学校 2 年 B 組 40 人 (男子 19 人 女子 21 人)
単 元	クラス器楽合奏
教 材	アラン・メンケン作曲「ア・ホール・ニューワールド(指導者による教材化編曲版)」
目 標	1. 習得した技能を元に、効果的な表現ができる。 2. 自分自身のイメージを、他者に分かりやすく伝え演奏を向上させることができる。 3. 生徒による指揮・演奏の関わり合いの相乗効果により、より良い演奏表現を求め高めていく基本的な態度を養う。

指導計画 (全 7 時間)

- 第一次 ・教材 (指導者編曲) の楽譜配布。指導者による各パート音の提示を通してその特徴をつかみ、イメージを膨らませる。1 時間
- 第二次 ・各パート・セクション練習 1 時間
- 第三次 ・合奏練習 (指導者による) 2 時間
- 第四次 ・生徒指揮者の導入 1 時間
- 第五次 ・生徒指揮者と生徒演奏者に対して複数の学習法 (指導法) を提示し、対比的に経験させる。複数の学びの比較を“課題抽出”として振り返らせる。2 時間
(本時は第五次の 1 時間目)

授業について

中学校第 2 学年は、3 クラスとも今年度に入ってからギターの学習と混声 3 部合唱の取り組みを主に展開している。既習のギター演奏技術を基に、11 月下旬からは発展的にクラス全体での器楽活動を行っている。

中学校 2 年生の 3 クラスはそれぞれ生徒実態が異なり、全クラス共通して設定しているのは 3 つの旋律的なリコーダーパート、ピアノを中心とする鍵盤楽器群、全体を下から支える低音楽器パート、和音とリズムを担当するギターパート、リズムとテンポキープを担当する打楽器群であり、それ以外の事項はクラス特性に配慮して微調整している。例えば、歌唱を愛好し希望するクラスには「歌パート」を運用したり、特定の楽器経験のある生徒には希望によって旋律的パートを割り振ったり、というクラス実態に即した調整である。

本単元の教材曲は、生徒には親しみ深く一般的に知られるものである。しかし臨時記号が多くまた途中で転調も入り複雑であるため、平易なハ長調に移行して取り組みやすくしたものを教材とした。なおシンコペーションのリズムは難易度が高いものであるが、この曲に限らず現代音楽では極めて汎用性が高く、生徒たちには身につけさせたい要素としてそのまま設定した。生徒たちは演奏技術について安定しており、全体的に既習事項の定着は見られる。また、器楽活動に対しても意欲的に取り組むことが出来る。しかし、生徒指揮者と演奏技術の特に高い生徒との対話に限定される傾向を持っており、それがなかなか全体に広がっていかないことが目下の課題であり、授業者の悩みでもある。これはかなり難しい点であるため、短期間での変容はなかなか見られないと予想する。しかしその中でもセクション練習や意見交流など指導(活動)形態を工夫することで、より対話を広げて表現を深めていくことを促したい。

本時の目標

- 1.教材曲のイメージを大切にした表現の可能性を探す。
- 2.生徒指揮者を中心に相互の対話を広げイメージを表現に結びつける方法を探す。

本時の評価規準（観点／方法）

1. 知識・技能 → 既に学習した事項を活用し，練習に反映させているか／生徒観察
2. 思考・判断・表現 → 楽曲の持つイメージに基づいて，表現を試行錯誤しているか／生徒観察・ワークシート
3. 主体的に学習に取り組む態度 → 生徒指揮者・演奏者双方の意見交流が行われ，演奏に反映させているか／生徒観察

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入></p> <p>13:20</p> <p>・本時の流れと学習目標の確認</p> <p>13:23</p> <p>・活動開始</p>	<p>・本時の目標と時間の流れを確認(板書)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><場所と時間の流れの確認></p> <p>・合奏の用意</p>	<p>・13:25～ 楽器準備と音出し(特に金管楽器では必要不可欠)をし，各パートの場所を指定して個人練習を行うように指示する。</p> <p>・個人練習では指導者は支援(テクニカルサポート)を行いながら巡回する。</p>
<p><展開1></p> <p>13:40</p> <p>・生徒Aによる合奏進行</p> <p>13:45</p> <p>・生徒Bによる合奏進行</p>	<p>・生徒指揮者A:</p> <p>① この曲の私のイメージ</p> <p>② 指揮指導</p> <p>③ 演奏評価</p> <p>④ 返し練習 → 演奏評価</p> <p>指揮者交代</p> <p>・生徒指揮者B:</p> <p>上記(①～④)に同じ</p>	<p>・指導者は，生徒指揮者による進行を見ながら，適切にテクニカルサポートを行う</p> <p>・指導者は，生徒指揮者による進行を見ながら，適切にテクニカルサポートを行う。</p>
<p><展開2></p> <p>13:50～14:00</p> <p>・セクション練習</p>	<p>・分奏へ場所移動</p> <p>・分奏活動(分散練習)</p> <p>・合奏へ場所移動</p>	<p>・2名の指揮者指導を踏まえパート内意見交流を促す。パート練習を行った場所に移動指示。分奏では指導者は支援(テクニカルサポート)を行いながら巡回する。</p>
<p><まとめ></p> <p>14:03～14:08</p> <p>・生徒Cによる合奏進行</p>	<p>・生徒指揮者C:</p> <p>リピートあり，本時のまとめ合奏</p> <p>演奏評価</p>	<p>・指導者は，生徒指揮者も含め本時の評価と，次時への見通しを指示</p>
<p>備考 準備物:各楽器, 楽譜(パート譜、スコア), 譜面台, 第2音楽室の板書計画</p>		

実践上の留意点

1. 授業説明

中学校第2学年のクラスで、年間を通して歌唱（合唱）・器楽（ギター）・音楽鑑賞の各領域の活動を、適切にバランスをとりながら展開をしてきた。授業日までの2学期の流れは主に合唱活動と器楽活動(ギター)で、対象クラスは概ねどの活動でも前向きで積極的なクラスである。

本授業では、クラス全体の器楽合奏活動に取り組んだ。ねらいは、活動の中で生徒たちが主体的に自己評価・相互評価をしリーダーを中心に課題意識を持ち演奏の向上を目指す態度を育成する、というものであった。クラス集団の実態は、大変意欲的に活動をまとめていくリーダーが複数いる反面、①適切かつ具体的に言語で表現することがまだ充分に出来ていない状態 ②限られた積極的な生徒に情報発信が限定され、その他の生徒たちまで主体的態度が広がっていかない、という課題が見受けられた。合奏活動の際に、複数の生徒指揮者が立候補してくれたことは歓迎すべきことであったが、目指す目標として1人でも多くの生徒からの意見発信が出来る集団の育成という点では、その後の継続的課題として残された。(その後の段階では、合唱活動においてより多くの生徒たちへの主体的活動の広がりが見られたようである)

授業者の適切なコントロール（テクニカルサポート）を心がけたが、昨年度の研究において「授業者としての働きかけが薄くなった」という課題が残ったので、今回は十分に意識して授業に臨んだ。研究授業では芸術科教員の他に、ギターの経験の深い他教科の教員にも参観して頂けた。授業の中で、他教科教員から具体的なテクニカルサポートを直接得る時間が持てたことは全く予定していなかったことであるが、生徒たちにとっても大変貴重な学びの時間となった。

2. 研究協議より

- ・全体的に、生徒が非常に生き生きと活動をしていたのが大変印象的であった。
- ・授業者の助言(生徒指揮者へのフォロー)が、適切だった。
- ・生徒が、それらの助言を素直に受け入れる素地が出来ていた。
- ・この曲については、イメージは「英語の歌詞の内容」だと思うので、授業の中で取り組めたら良かった。
- ・強弱差（ダイナミクス）をつける際に、リコーダーという楽器が不利な場面がある。それに対して、運指をはっきり動かしたらフレーズが明瞭になるという指導に、生徒がとても素直に反応していたのが印象的であった。

